

中学 2 年 国語科 教材別テスト④ 模範解答・解説

教材別リメイク版 中学 2 年 国語 / 「クマゼミ増加の原因を探る」(沼田英治) / 光村図書『国語 2』

【このテストの使い方】

本文は載せていません。教科書『国語 2』の「クマゼミ増加の原因を探る」のページを開いたまま解答します。この文章は、話題提示 → 仮説 → 検証（実験・観察） → 結論という科学的な文章の型で書かれた説明文です。「何が書いてあるか」を覚えるのではなく、筆者がどう考えを進めたか（論の運び方）を追うことが読みの中心になります。そのため、記述は「～ため。」「～こと。」の形でまとめさせる問題を多くしてあります。グラフ・図表は本文と行き来しながら確認させてください。

配点一覧

観点	大問	内容	配点
知識・技能 50点	一	漢字の読み書き（20問）	1点×20＝20点
	二	語句の知識（語の意味・対義語・慣用的な言い方・熟語の組み立て）	2点×7＝14点
	三	接続語の働き・接続語の補充・指示語の内容	2点×8＝16点
思考・判断・表現 50点	四	「クマゼミ増加の原因を探る」の読解	50点
合計			100点

【出題のねらい】

- ① 接続語の働き（順接・逆接・並立添加・対比選択・説明補足・転換）を区別し、指示語の指す内容をとらえられるか。
- ② 筆者が立てた三つの仮説を、それぞれ区別して説明できるか。
- ③ 仮説 → 実験・観察 → 結果 → 考察という科学的な手順を理解しているか。
- ④ グラフ・図表が、筆者の主張を事実で裏付ける働きをしていることに気づけるか。
- ⑤ ヒートアイランド現象（気温の上昇）と都市化（地面の硬化・乾燥）という二つの要因が重なったという、結論の組み立てをとらえられるか。

一 漢字の読み書き (1点×20=20点)

番号	解答	番号	解答
①	さぐ(る)	⑪	正確
②	じょうしょう	⑫	資源
③	かせつ	⑬	複雑
④	けんしょう	⑭	議論
⑤	かんそう	⑮	環境
⑥	ようちゅう	⑯	根拠
⑦	たまご	⑰	影響
⑧	つゆ	⑱	推測
⑨	かた(い)	⑲	破れる
⑩	こうさつ	⑳	著しい

小計 20点

【注意したい字】

①「探る」は「さぐる」。「たんる」のような音読みの誤りに注意。送りがない必要。④「検証」の「検」は木へん。「険」「験」との書き分けに注意。⑤「乾燥」は二字ともむずかしい。「乾」は十画、「燥」は火へん(「操」＝手へんと混同しやすい)。⑧「梅雨」は熟字訓で「つゆ」。「ばいう」とも読むが、ここでは「つゆ」が自然。⑨「硬い」は石へん。「固い」「堅い」との使い分けも確認。⑯「根拠」の「拠」は手へん。⑰「影響」はどちらも画数が多い。「響」の下は「音」。⑮「環境」の「環」は王へん。⑲「破れる」、⑳「著しい」は送りがないまで書いて正答(「著い」「著るしい」は×)。「破れる」は布や紙に、「敗れる」は試合に使う。

二 語句の知識 (2点×7=14点)

番号	解答	解説
(1)	ア	「考察」＝調べて得られた結果の意味を考えること。イは「計画」、エは「記録」にあたる。結果（事実）と考察（その意味づけ）は別のものであることをおさえる。
(2)	ア	「要因」＝そうなるもとになった主な原因。「原因」とほぼ同じ意味で、いくつかある原因のうちの一つをさすときによく使う。
(3)	ア	「検証する」＝実際に調べて、正しいかどうかをはっきりさせること。仮説は立てただけでは終わらず、検証されなければならない。ウ「結果を知らせる」は「報告」、エ「大まかに見わたす」は「概観」。
(4)	減少	増加 ⇄ 減少。「増える」の対は「減る」。
(5)	下降	上昇 ⇄ 下降。「低下」も意味は近いが、「上昇」とちょうど対になる形は「下降」。「低下」も可とする。
(6)	イ	「裏付ける」＝別の証拠によって確かであることを示す。説明文では、グラフや実験結果が主張を裏付けるという形で使う。
(7)	イ	「増加」＝「増える」と「加わる」で似た意味の漢字の組み合わせ。同じ組み立ては「永久」（永い＋久しい）。ア「加熱」は「熱を加える」（下が目的）、ウ「読書」も目的、エ「高低」は反対の意味。

小計 14点

三 接続語・指示語 （2点×8＝16点）

番号	解答	解説（見分け方）
(1)	ア（順接）	「だから」＝前が原因・理由、後が結果。「したがって」「それで」も同じ働き。
(2)	イ（逆接）	「しかし」＝前から予想されることと逆の内容が続く。「ところが」「だが」も同じ。
(3)	ウ（並立・添加）	「また」＝前と同じ資格の内容をつけ加える。「そして」「さらに」も同じ。
(4)	オ（説明・補足）	「つまり」＝前の内容を言いかえて説明する。「すなわち」「要するに」も同じ。「なぜなら」（理由の補足）もこの仲間。
(5)	イ	「雨が降っていた」→ふつうなら試合は中止になりそうだが、予定どおり行われた。前から予想されることと逆の内容が続くので逆接の「ところが」。ア「そして」は添加、ウ「なぜなら」は理由、エ「または」は選択で不適。
(6)	（例）校庭の桜が例年より早く咲いたこと。（17字）	指示語は直前をさがすのが原則。「校庭の桜が例年より早く咲いた」という一文の内容全体をさしている。「桜」だけ、「校庭」だけのように語で答えたものは不可。文末が「～こと。」でまとまっていれば可。二十字を超えたら－1点。
(7)	イ	前後で二つのものを比べているので、対比の「一方」。ア「そのうえ」は添加、ウ「したがって」は順接、エ「たとえば」は例示で、いずれも「増えた／減った」という対比を表せない。
(8)	川の水位	指示語は直前をさがすのが原則。「それ」は直前の文の「川の水位」をさす。四字ちょうどで抜き出すこと。「水位」「川の水位にも目を向けた」は字数が合わず不可。

小計 16点 ／ 知識・技能 合計 50点

【論理用語の整理】

前提（話を進めるうえで認めておく条件）→ 仮説（仮に立てた説明）→ 検証（実験・観察で確かめる）→ 結果（確かめて得られた事実）→ 考察（結果の意味を考える）→ 結論（最終的なまとめ）。「原因」のうち主なものを要因と呼ぶ。この流れを言葉で言えるようにしておくと、説明文全体の見通しがよくなります。

四 「クマゼミ増加の原因を探る」の読解（50点）

番号	解答	解説・採点のポイント
(1) 4 点	ア	文章の初めで示される課題設定（問い）。エ「都市の気温が上がった理由」は、この文章では答えるべき問いではなく、原因を考える手がかり（前提）として扱われている点に注意。
(2) 3 点	イ	仮説は検証される前の仮の説明。エ「確かめる必要のない空想」が×であるのは、筆者が実際に実験・観察で一つずつ確かめているから。
(3) 4 点	（例）気温の上昇で、冬の寒さによる卵の死亡が減ったため。（25字）	「気温が上がった」（2点）＋「冬の寒さで死ぬ卵が減った」（2点）の二点で採点。「暖くなった」も可。「卵」を「幼虫」「成虫」と書いたものは後半0点。文末が「～ため。」になっていなくても、理由として読めれば減点しない。二十～三十字から外れたら－1点。
(4) 4 点	ア	クマゼミの卵がふ化するには雨の湿り気が必要。気温の上昇でふ化の時期が早まった結果、雨の多い梅雨に間に合うようになったという仮説。「早まる」と「遅れる」を取りちがえてイを選ぶ誤りが最も多い。
(5) 5 点	（例）都市化で地面が硬く乾燥しても、クマゼミの幼虫は生き残れるため。（31字）	「都市化で地面が硬くなり乾燥した」（2点）＋「クマゼミの幼虫はそれに強く、もぐれる／生き残れる」（3点）の二点で採点。「ほかのセミより強い」という比較に触れたものは加減扱いでよい（上限は5点）。地面の変化だけを書いてクマゼミ側の強さに触れていないものは2点。二十五～三十五字から外れたら－1点。
(6) 4 点	イ	グラフ・図表は数や量という事実で主張を裏付けるもの。ア「かざり」、エ「読者にゆだねる」は説明文の図表の働きとして誤り。本文と図表を行き来して読む姿勢が問われている。
(7) 5 点	ア・ウ・オ	実験・観察で実際に確かめられた結果（事実）は、ア「水を与えた鉢だけ芽が出た」、ウ「水を与えない鉢は芽が出なかった」、オ「土の量は同じだった」（実験の条件）。イ「このことから…考えられる」は結果をもとにした考察、エ「おそらく…にちがいない」は確かめていない予想（仮説）なので×。ア・ウ・オの三つがそろって5点（完答）。一つでも欠けたり余分があれば0点。
(8) 4 点	ア	科学的な研究の手順は仮説 → 実験・観察 → 結果 → 考察。「結果が出てから仮説を立てる」としたウを選ぶ誤りに注意。先に問いと仮説があることがこの文章の特徴。

(9) 5 点	(例) ヒートアイランド現象による 気温の上昇と、都市化による地面の 乾燥が重なったこと。(38字)	「気温の上昇(ヒートアイランド現象)」(2点) + 「地面の硬 化・乾燥(都市化)」(2点) + 「二つが重なった」(1点) の三点 で採点。 どちらか一方しか書けていないものは最大2点。「人間のせい」の ようなばくぜんとした書き方は加点しない。三十～四十字から外 れたら－1点。
(10) 4 点	イ	この文章の結論は「原因は一つではない」という形をとる。アの ように一つの原因に決めつけたものは、筆者の考えと正反対。ウ 「失敗」も明らかな誤り。

四 「クマゼミ増加の原因を探る」の読解（つづき）

番号	解答	解説・採点のポイント
(11) 4 点	ア	話題提示 → 仮説 → 検証 → 結論という構成をふつうの言葉で言いかえたのがア。イは「頭括型で理由が一つ」、ウは「対比して読者に判断をゆだねる」、エは「随筆・回想」の構成で、いずれもこの文章とは合わない。
(12) 4 点	（例）予想を仮説として立て、実験や観察で一つずつ確かめ、結果をもとに考えて結論を導くことが大切だ。（46字）	【ループリック】 4点…①「仮説を立てる」②「実験・観察で確かめる（検証する）」の二つに触れ、さらに③「一つずつ確かめる」または「原因を一つに決めつけない／複数の要因を考える」のいずれかが入っており、四十～五十字におさまっている。 3点…①②に触れているが③が弱い、または字数が範囲から1～5字外れている。 2点…①②のどちらか一方しか書けていない。 1点…「よく調べることが大切」のように、ばくぜんとした感想にとどまる。 0点…本文と無関係な内容、または無解答。 ※「思い込みで決めない」「事実（データ）で確かめる」という方向の答えも、①②に相当すれば満点とする。

思考・判断・表現 合計 50点 / 総合 100点

【この教材で落としやすいポイント（8つ）】

1. この文章の問いは「なぜ大阪でクマゼミが増えたのか」。「なぜ都市の気温が上がったのか」は問いではなく前提。ここを取りちがえると全体がずれる。
2. 仮説は三つある。①冬の寒さによる卵の死亡が減った、②ふ化の時期が早まって梅雨に間に合うようになった、③硬く乾いた地面にもクマゼミの幼虫は強い。三つを混ぜて答えないこと。
3. 仮説②は「ふ化が早まった」。「遅れた」と逆に覚えてしまう誤りが非常に多い。卵のふ化には雨が必要→だから梅雨に間に合うことが重要、という筋をおさえる。
4. 仮説③は「地面が硬く乾いた」だけでは答えにならない。クマゼミの側が乾燥や硬さに強いという点までセットで書く。
5. 筆者は仮説をすべて正しいと決めつけていない。実験・観察で一つずつ検証し、結果を考察してから結論を出している。「検証」「考察」「結論」を混同しないこと。
6. グラフ・図表は飾りではない。本文の主張を事実で裏付けるためにある。図表だけを見て答えたり、逆に本文だけ読んで図表を飛ばしたりしないこと。
7. 結論は「原因は一つではない」という形。ヒートアイランド現象（気温の上昇）と都市化（地面の硬化・乾燥）という二つの要因が重なったからこそ増加が起きた、という重ね合わせの構造が最大のポイント。
8. 記述は「～ため。」（理由）／「～こと。」（内容）と、問われ方に合わせて文末をそろえる。語句を並べただけ、本文の語を写しただけの答えは得点にならない。

